

生まれる前からあった絆

名取第二中学校（現高校1年生） 佐藤 愛

これからの日本を支えていく私たちは、一人ひとりが協力し合い、みんなで一つになっていかなければいけません。そして、協力することによってできた絆を次の世代へと引き継いでいきたいとも思っています。そのことは、東日本大震災を通して感じました。

一年前の三月十一日、東日本大震災が起き、ガスや水道、電気が止まりました。建物は崩れ、ガラスが割れ、見たことのない景色が広がり、うろたえました。これからの日本は大丈夫か、と震災直後はずっと心配ばかりしていたものです。ですが、さまざまな人の支援を受けることで、私の不安は少しずつ薄らいでいきました。他県の人々からのメッセージ、食べ物を分けてくれた近所の人々、他国からも助けを受けました。そうしたたくさんの人々とのつながりのお陰で、元気や勇気をもらい、私は絆というものを感じることができました。でも実は、そのつながりは、今新しくできたものではなく、前からあったものだと思いました。私たちの両親や私たちが生まれる前に、すでに種をまいて、育ててくれた人がいて、さらに少しずつつなげてくれた人がいたからこそ、強い絆であったのだと心から感謝しています。

今まで未来へ絆をつなげようと頑張ってくれた人々のためにも、今度は私たちが絆をつなげていかなければならないと思っています。何ができるかは分かりませんが、未来へとつなげられるよう、見本となって頑張りたいと思っています。私はこの春から高校生になりますが、そんな人間になれるように諸活動を通して学びたいと思ってやみません。思いやりを大切にできるような人間になるために高校生活を頑張っていきたいと思っています。